

NO. 54
March '13

Newsletters

神戸女学院大学
女性学
インスティテュート

多様性と格差のはざま

三 杉 圭 子

私はアメリカ文学研究をしています。多様性の国アメリカを考えるためには、さまざまな差異と向き合うことが重要です。女性の問題を扱うにしても、人種、民族、宗教、階級などを抜きに、それを語り難いのが現状です。ジェンダーすなわち社会的性差について考えることは、いろいろな差異に思いをめぐらせることとなります。2011年夏から一年間、私はニューヨーク市のマンハッタン北部にあるコロンビア大学に留学させて頂きました。ごく限られた見聞ですが、この街が見せるさまざまな顔に、好奇と嫌悪がないまぜになりつつも、凝視を余儀なくされ、今も考え続けていることがいくつかあります。

ニューヨークの魅力のひとつは、文化的多様性です。さまざまな人種、民族、文化、宗教が時にはぶつかりあいながら混在しています。そして、そこに暮らす人々はあまり他人の視線を気にせず、自分のライフスタイルを貫いているように見えます。雑多な大都会ならではの種々の風通しの良さがあります。ただしそれは、自己主張をしていなければ誰も存在を認めてくれないといった緊張感と隣り合わせであり、寛容というより無関心の結果なのかもしれません。

そのような文化的多様性が街の活気や推進力を生み出す一方で、決して無視できないのは、この街に凝縮されている絶大な経済格差です。マンハッタンは面積にして60km² 足らず、世田谷区とほぼ同じです。人口は約160万。この小さな島で巨万の富が生まれ消費されると同時に、貧困にあえぐ人々がいます。先日、同地区の上位20%の収入中央値は約3,000万円、下位20%の80万円足らずの実に40倍だと報じられていました。

この厳しい経済格差は、人種や民族性の問題と深く関わっています。私が借りていたアパートは地下に共同ランドリーと子どもを遊ばせる部屋がありました。住人はヨーロッパ系が大半でしたが、平日の昼間に地下で出会う女性たちは、たいいてい肌の色がダークで、お互いに英語ではない言語を使っていました。おそらく多くがヒスパニック系だったと思います。山ほどのシートを要領よくたたみ、ヨーロッパ系の小さな子どもの面倒を見る彼女たちは、通いのメイドやベビーシッターなのです。

ここで少し話を広げてアメリカの女性の働き方に目を向けてみたいと思います。最近の統計ではアメリカ

の女性管理職者割合は40%強、日本の10%の4倍です。日本の賃金や昇進におけるジェンダー・ギャップは非常に大きな問題です。しかし同時に、アメリカをはじめ多くの先進国では、移民女性などの低賃金労働者層が高収入層の子育てや家事労働を肩代わりしていることを忘れてはならないと思います。



三杉圭子 教授

日本とは文化の違いがあり、子育てや家事労働を外注することにあまり抵抗がないのは事実だろうと思います。日本では、家庭内の女性が家事育児に従事するのが望ましいという伝統的価値感があり、女性が家計のために働く場合でも、依然として家庭内労働は妻や母が担うという傾向が顕著です。その結果、賃金や昇進におけるジェンダー・ギャップが大きくなっています。

他方、多くの先進国では、家庭内労働は家族間のジェンダー・ポリティクスではなく、経済的階層間の差異によって解決されています。その差異は、社会階級や民族性そして再びジェンダーの問題と根深く関わっています。メイドとして働く後発移民の女性たちは、高給とも昇進とも縁遠いジェンダー化された労働環境にあり、おそらくそこから出ることは構造的に大変難しいのです。

ニューヨークという街は唯一無二の特別な場であると同時に、アメリカ合衆国の、そしてグローバリゼーションが進む世界の縮図です。多様性が生み出すダイナミズムは社会に力を与えます。しかし内部格差は、女性の働き方ひとつとっても、非常に難しい問題を呈しています。多様性と格差の間で、解はないのでしょうか。

ひるがえって日本は比較的均質性の高い社会です。それは多数派には居心地の良いものですが、ある人たちにとっては画一性が強要され、息苦しいものです。今、日本でも経済格差が広がりつつあります。そしてこの格差は、外観や出自が均質な社会においてこそ、心理的なひずみにつながり易いのではないかと察しています。さらに、経済格差にジェンダー・ギャップが重なれば、最も弱い立場におかれるのはやはり女性であることを覚えておかねばなりません。私たちが風通しの良い穏やかな社会を作るためには何ができるのか、考え続けたいと思います。

(文学部教授：米文学文化論)

学外講演会

【第1回：2012年10月9日】……………松尾 歩
 ●「バイリンガルの子どもたちによる、会話の理解と認知の発達について」

現在までに発達心理学では子どもの認知の発達に言語が関係することについて、多く論議されてきたが、そのタイミングや本質についてはまだ知られていないことが多く、この研究ではバイリンガルであることが認知の発達にどれほど有利であるかについて、会話の公理の発達に焦点を当てて調査した。

まず、Wei (2000) の研究に言及し、バイリンガルどのような多くの種類があり、「バイリンガル」と簡単に私たちは日常会話でつかうが、いろいろな人のことを指し、バイリンガルの個人個人の中でも、2つの言語の能力は流動的であることを指摘した。そして、私たちが調査した実験2つを紹介した。まず始めの実験では4～6歳の英語のモノリンガルの子ども21人(平均月齢64ヵ月)、日本語のモノリンガルの子ども20人(平均月齢63ヵ月)、そして日英バイリンガルの子ども20人平均(月齢65ヵ月)が参加した。バイリンガルの子どもたちは英語、日本語両方において絵画語彙発達調査ではモノリンガルに劣ったが、会話内の含意を解釈する調査ではモノリンガルに勝った結果となった。そして、第2の実験では、Grice (1989) の会話の4つ公理(量・質・関連性・作法)に対して、モノリンガルとバイリンガルの子どもたちがどれほど敏感であるかについて調べた。この実験には59人の日本語モノリンガル(月齢55～85ヵ月)と33人の日英バイリンガル(月齢55～68ヵ月)の子どもたちが被験者として参加した。結果としては、4つのどの公理をとってもバイリンガルの子どもがモノリンガルに勝るものであった。

(Sigal, Surian, Matsuo et al, 2010参照)

これらの実験結果から、バイリンガルの子どもたちが公理違反にすぐ気がついたり、含意の意味解釈に勝っていたりすることは、本人の語彙が劣っていることを埋め合わせるためではないか、という考察ができる。もちろん文化的影響があることも否定できない。例えば、日本語モノリンガルの子どもたちは、英語圏の子どもたちに比べて、作法の公理の違反を見つけるのが上手く、質の公理の違反を見つけることが下手である。バイリンガルの子どもたちは作法の公理の違反を見つけることも、質の公理の違反を見つけることにも両方勝っており、これは2つの文化にさらされている利点なのかもしれない。以上、2つの実験結果を報告させていただき、その後実り多い質疑応答となった。

聴衆の方々はバイリンガルに関心を示され、違う分

野の学生からは今までに考えたことのない観点からの質問も受け、大変有意義な2時間となった。この講演のために周到な準備をしてくださった女性学インスティテュートの関係者の皆様、そしてディレクターの米田真澄先生に感謝の意を述べたい。

(文学部准教授：英語学)

【第2回：2012年10月24日】……………河西秀哉
 ●「近代に女性天皇が排除されたのはなぜ？」

現在の皇室典範では、女性が天皇になることはできない。1889年の旧皇室典範制定時、敗戦後の皇室典範改正時、この2つの時期に現在の規定に決定された。

明治期の自由民権運動の中でも有力な政社の一つであった嚶鳴社は、1882年に「女帝を立てるの可否」との討論会を開催している。

討論会では、女性天皇反対の立場から、第一に日本は男性尊重の社会であり、天皇を女性とすることは受け入れられないこと。第二に女性天皇は歴史・伝統にそぐわないこと。第三に皇婚が女性天皇の力を借りて権勢を振るう可能性があること。第四に天皇になる者の確保に問題はないので女性天皇は必要ないこと(庶子相続が認められていたため)などの意見が出された。

女性天皇賛成の立場からは、反対意見それぞれに反駁が加えられたほか、男性を女性より尊重する古い慣習はとるべきではないこと、ヨーロッパに女性の君主が存在していることが賛成の理由として提示された。

この討論会に注目していた法制官僚井上毅は、男系長子が家を相続し、権限を持った戸主を中心とした「家」単位の支配を目指す中で、天皇をこの「家制度」の頂点に位置づけた。それゆえ、そこに女性が座ることなど、考えられなかった。こうして皇位継承は男系男子に限定され、近代になって女性天皇は排除された。

敗戦後、皇室典範改正過程の中でも政府は、男性天皇こそが伝統であり、新しさに添うよりも歴史や特殊性こそを重視すべきだとして、女性天皇を排除した。明治以来の方針を堅持したのである。

とはいえ、男性天皇を必ず固守しなければならないとも考えていなかったようである。将来への含み・検討の余地(先送りしたとも言えるだろうか)を残している。より時間をかけて研究した上でならば、女性天皇の可能性もあり得ることを政府も述べていた。

昭和天皇の弟であった三笠宮は、皇室典範改正に関して意見書を執筆している。その中では、現在のところ女性天皇は認めなくてもよいが、やがて男女平等が進展する時には女性天皇も認めなければならなくなる日が来るだろうと述べている。三笠宮のような穏健的態度もあったが、その後皇室典範は改正されなかった。

(文学部専任講師：日本近現代史)

女性と哲学

高橋 雅人

ハンナ・アーレントやシモーヌ・ヴェイユといった優れた女性哲学者を生み出した20世紀以降、「女に哲学はできない」という輩は、生存しているとしても、その姿を確認することは難しい。この言い草がいつ頃から定着したのかは、古代ギリシア哲学を専門に学ぶ私には残念ながら分からない。当時、哲学の様々な学派は女性にも門戸を開いていたからである。「男らしさ」を売り物にしているかに見えるストア派においてさえ、教育に関しては女性も男性と同等だとされる。

ストア派のこの主張は、もしかしたらプラトンの『国家』の受け売りかもしれない。プラトンによれば学びに関して性差は存在しないので、向いているならば男女を問わず大いに哲学を学ぶべきだからである。よく知られているように、哲学者こそ政治を行うべきだという哲人王の理想をプラトンはこの対話篇で語るが、哲人女王の可能性も開かれているのだ。

なるほど確かに、プラトンの対話篇の中に出てくる登場人物はほとんど男性である。だが我々はこの事実にはプラトンの二枚舌をではなく、当時のギリシア社会の現実を感じ取るべきであろう。女性は宗教行事を除いては家にいるべきだとされ、めったに外出することはなかった。いつもアゴラ（市場）をうろつきまわっていたソクラテスを対話篇の主人公とする以上、その対話の相手が男性であるのは当然なのだ。

そのような中において、プラトンは自身の思想の核心である「イデア論」を師のソクラテスがディオティマという女性から学んだものとして導入した。それも男性だけしかいない宴会をその舞台としたのだ。プラトンが女性を差別していないどころか神々に等しいものとして遇しているのは明らかではないだろうか。

と書いてきたらいささかの疑念が生じた。——哲学するのは「知と無知の間」にある者だ。他方、ディオティマは知者として描かれている。とすると、やはり女性に哲学はできないのだろうか。なぜなら女性はすべてを知っているからである……。

議論が複雑になってきた。だから面白い。

(文学部教授：哲学)

震災に生きる地域女性

武中 桂

東日本大震災以降、被災地には主体的に活動する女性たちの姿があります。かねてから共同調査のフィールドとして私自身足を運んでいる石巻市北上町にも、生活改善対策や子どもの交流・体験活動などを展開する女性たちの元気な姿があります。そこでは、子育て世代の女性も目立ちます。ただし、女性たちの活動の先にある目的に今一度立ち返ってみると、震災以前から地域にあったと思われる課題の解決を目標として定めているケースが散見されます。なぜ従来から地域に存在する課題に対して、「震災」をきっかけとして若い世代の女性たちが取り組むようになったのでしょうか。また、女性たちの主体的な活動は、地域の「復興」とどのように結びついているのでしょうか。これらの問いに対し、私は今、地域女性たちにとっての「復興」とは何か、という視点から調査・考察を進めていこうと考えています。

震災以前、同フィールドで私は、70歳代～80歳代の女性たちから各個人のライフヒストリーを中心に多岐にわたるお話を伺ってきました。同地域で生まれ育った話、結婚を機に他地域から移ってきた時の話、戦中戦後の地域の様子、生計を営むために夫と二人三脚で家業に動しんだ話、出稼ぎのため夫が留守になる冬期間に家を守った嫁時代の話、高齢者となった今の地域での楽しみ……など。その語りのどれもが「生きた」語りであり、その地域に根付いたリアリティを備えています。大変残念ながら、お話を伺っていた多くの方が震災による津波でお亡くなりになってしまいましたが、今改めてそのときの話の内容を思い返してみると、先の問いへのヒントが隠されているような気がします。

そこで今、取り組もうとしているのが地域の女性たちの話を「聞き書き集」にする、という作業です。これまで伺ってきた話の数々、そこに震災後の女性の姿も加え、「地域に生きる女性の姿」を描き出したいと考えています。従来通り地域で暮らすための女性たちの実践、これからの「地域」での暮らしには不可欠な生活課題群の改善、「復興」との関係性を追究、明らかにすることは、私自身の研究課題のひとつでもあります。

(人間科学部特任助教：環境社会学)

2012年度 活動報告

■講演会・セミナー（一般・学生対象）

特別講演会 4/27 (金) 「三美神をめぐる」 濱下昌宏 名誉教授	(神戸女学院講堂) (10:35~11:25) 参加者: 120名
連続セミナー「文学の中の女 一歩く女」(全4回) 5/25 (金) 第1回 「浮遊する日系少女」	(JD-104) (14:00~15:30) 文学部英文学科 元教授 吉田純子
6/1 (金) 第2回 「越境する言葉と身体 一多和田葉子をめぐって」	文学部総合文化学科 教授 孟 真理
6/8 (金) 第3回 「阿仏尼『十六夜日記』の世界」	文学部総合文化学科 教授 藏中さやか
6/15 (金) 第4回 「モダンガール、歩く」	文学部総合文化学科 教授 飯田祐子
受講者数累計: 一般58名、学生6名 計64名 修了証交付: 13名	
学外講演会 (全2回) 10/9 (火) 第1回 「バイリンガルの子どもたちによる、会話の理解と認知の発達について」	西宮市大学交流センター (西宮北口 ACTA東館6階) (10:30~12:00) 出席者: 一般3名、学生16名 計19名 文学部英文学科 准教授 松尾 歩
10/24 (水) 第2回 「近代に女性天皇が排除されたのはなぜ?」	出席者: 一般15名、学生0名 計15名 文学部総合文化学科 専任講師 河西秀哉

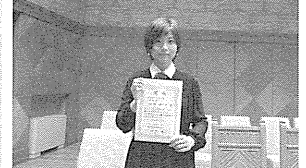
■学生向プログラム

授業 Cu134(1)(2)「女性学(実践編)」 Cu234(1)(2)「女性学(理論編)」 インターディシプリナリー・プログラム 第14回「女性学インスティテュート賞」 学生懸賞論文 最優秀賞: 該当なし 優秀賞: 2編	(両名共、2012年3月人間科学部卒) 森田 涼香「若年女性における月経前症候群(PMS)の生体反応について」 前田めぐみ「職場環境と個人特性がキャリア形成初期における理想のキャリア・パターンに及ぼす影響」
---	---

■発行者

<10/9 学外講演会 第1回> <10/24 学外講演会 第2回> <学生懸賞論文・優秀賞(前田さん)>

10月 newsletter No.53 3月 newsletter No.54 『女性学評論』第27号
--



2013年度 スケジュール

■講演会・セミナー（一般・学生対象）

特別講演会 5/17 (金) 「女性の自立と幸せのために ~国際条約をもっと活用しましょう~」 ワーキング・ウイメンズ・ネットワーク代表 越堂静子 氏	(神戸女学院講堂) (10:35~11:25)
連続セミナー「性を売る女、買う男」(全4回) (定員: 50名。締切: 2013年5月31日(金)必着) (JD-104) (14:00~15:30)	文学部総合文化学科 准教授 中野敬一
6/14 (金) 第1回 「聖書に登場する売春女性たち」	文学部総合文化学科 専任講師 河西秀哉
6/21 (金) 第2回 「売買春の日本近現代史」	文学部総合文化学科 教授 米田真澄
6/28 (金) 第3回 「売春防止法と風俗営業法の共存」	文学部総合文化学科 専任講師 景山佳代子
7/5 (金) 第4回 「戦後日本の性風俗と売春防止法」	
○連続セミナー 申込方法 *本学学生は、直接、女性学インスティテュートに申し込んでください (JD館入口真上。JD-301)。 【往復はがき】 往信の文面に、①「氏名(ふりがな)」 ②「郵便番号」 ③「住所」 ④「電話番号」を明記し、下記住所宛ご送付ください。 〒662-8505 西宮市岡田山4-1 神戸女学院大学 女性学インスティテュート 連続セミナー係 【メール】 件名: 「連続セミナー(申込)」 送信先: 神戸女学院大学 女性学Inst.事務局 wsi-o@mail.kobe-c.ac.jp 本文に、①「氏名(ふりがな)」 ②「郵便番号」 ③「住所」 ④「電話番号」 ⑤「メールアドレス」を明記し、上記宛送信ください。(要: 迷惑メール解除)	
学外講演会 (全2回) 10月頃 *詳細決定後、newsletter、HPなどで告知します。	西宮市大学交流センター (西宮北口 ACTA東館6階) (10:30~12:00)

■学生向プログラム

授業 Cu134(1)(2)「女性学(実践編)」 Cu234(1)(2)「女性学(理論編)」 インターディシプリナリー・プログラム 第15回「女性学インスティテュート賞」 学生懸賞論文	締切: 2013年7月10日(水) 16:00必着
--	---------------------------

■発行者

10月 newsletter No.55 3月 newsletter No.56 『女性学評論』第28号
--

編集・発行: 神戸女学院大学 女性学インスティテュート

編集委員: 三浦欽也、難波江和英、鶴野ひろ子、米田真澄(委員長)
編集事務: 藤谷悦子、吉永真理子(ABC順)
〒662-8505 西宮市岡田山4-1 TEL 0798-51-8545 FAX 0798-51-8527
URL <http://www.kobe-c.ac.jp/gender/> e-mail: wsi-o@mail.kobe-c.ac.jp

